ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	香西　史子

主な担当科目	英語研修,演劇の歴史と作品,初級英語・舞台芸術Ⅰ,初級英語・舞台芸術Ⅱ,初級英語Ⅱ,上級英語・精読Ⅰ,上級英語・精読Ⅱ,上級英語Ⅳ,中級英語・舞台芸術Ⅰ,中級英語・舞台芸術Ⅱ,中級英語Ⅱ,文学

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	・英語科目においては、正しい英語の理解とともに、正しい発音・発話指導にも大きく注力することにより、積極的に受講者が英語で自身の思いを発信する力を強化することを目指す。 ・「演劇の歴史と作品」においては、各回の内容を精査し、重点的に知識として知るべき要素に時間を割くこと、また、メディア授業でありながらも双方向のコミュニケーション確立を目指す。 ・「文学」においては、各回の内容を精査し、文学作品の付き合い方として新しい視点を与えられるように展開することを目指す。
2025年の教育に関する自己評価	・英語科目においては、国際英語発音指導士®として地道な発音指導が着実に実を結び、多くの学生が学年当初から自らの変化を実感したと報告している。 ・「演劇の歴史と作品」においては、学生の理解度が高まり、また、コミュニケーションのある程度の確立ができた。また、西洋演劇史の教科書『エッセンシャル・シアター』出版により、学生の理解を深めることができた。 ・「文学」においては、西洋文学の「解釈の方法」の新しい視点を示すことができた。

2025年のFD活動に関する自己評価	例年通り積極的に関わった。[語学分科会]今年度よりスタートしセメスター制のおよぼす影響について、先生方から聞き取り調査を行い、改善の方針検討を開始した。[全学FD研修会] 4月の全学FD研修会において、Unipaのコース授業機能の活用法についてプレゼンテーションを行なった。
授業改善のために取り入れた研修内容	・具体的に取り入れた工夫ということではなく、心構えとして、1クラス内の受講者の理解度・理解力等の差があることを常に意識する。 ・新旧カリキュラムが並走する授業を多く担当しているため、学生が混乱しないような明確な指示を心がけた。

2025 年度（春学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード 0700　教員名：香西　史子

1）アンケート結果に対する所見

◯『演劇の歴史と作品』
対面で受講したかったという反応が一定数ある。この授業では出席報告フォームに「質問・感想欄」を設け、香西の回答を次の配信開始日に配信している。この方法は制作側としては極めて煩瑣で時間がかかるが、少なくとも受講者との交流ができるという点では非常に良い手段であり、受講生からも好評である。また、UNIPA のコース機能を使用して、学生が「視聴していない」部分がないよう配慮した。
◯英語科目
発音指導への重点を強めることで、学生が達成感を得られていることが明確にわかるようになった。英語への苦手意識は、発音を改善することからも克服できるという信念のもと、引き続き英語の「音」へのセンシティビティを養う授業内容を進めていく。

2）要望への対応・改善方策

◯『演劇の歴史と作品』
対面での試験について、難易度等について改善を加える。
◯英語科目
難易度の見直しを行い、学生の「達成感」を導ける内容配分をある程度増やしていく必要がある。また、発音指導をより強化することで、英語を実際に身体的に使用することが学修効果を高めることを学生に実感してもらう。

3）今後の課題

◯日本語力の問題
どの科目においても日本語運用能力に大きな差異が見られるようになっている。授業内での対応を検討することが必要であるが、さらに各授業の日本語難易度や含有率などを表示するといった事務的な対応も必要である。

以　上

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：0700　教員名：香西史子

1）アンケート結果に対する所見

〇対面で受講したかったという反応が一定数ある。現在進行している講義においては、これまでの経験上、受講生の理解が困難な部分については、より丁寧な解説を追加するようにした。

〇英語科目

グループワークを苦手とする学生が一定数いるため、教員が敏感に彼らのニーズに気づく必要があり、大人数のクラスではそれはことのほか困難である。語学の授業においてグループワークやアクティブラーニングは必須だが、そもそもことばの発話を通じて他者と交流することへの苦手意識が近年増加している中で、語学教育のあり方について考えさせられることが多くなった。また、AI の進歩により、自分自身のことばではない AI による翻訳に安直に依存することへの危機感を、どのように若者に理解してもらえば良いのか、これも非常に難しい問題である。

〇文学

受講時の学生の文学体験背景がさまざまであり、受講してみて初めて新鮮な気づきを得る学生もいれば、難しいと感じる学生もいるのは当然である。どちらの場合も、これをきっかけとして文学の世界をさらに体験することにつなげることができれば良い。

2）要望への対応・改善方策

〇『演劇の歴史と作品』

受講生の理解が困難な部分については、より丁寧な解説を追加するようにした。毎回の講義直後のミニテストを、重要ポイント理解度を自分でもすぐに把握できる方式に変更する。

〇英語科目

難易度の見直しを行い、学生の「達成感」を導ける内容配分をある程度増やしていく必要がある。また、発音指導をより強化することで、英語を実際に身体的に使用することが学修効果を高めることを学生に実感してもらう。

〇文学

オンディマンド方式での学修に慣れてもらう工夫を検討する。

3）今後の課題

〇日本語力の問題

日本語が第一言語であるか否かに関わらず、日本語運用能力に大きな差異が見られるようになっている。授業内での対応を検討することが必要であるが、さらに各授業の日本語難易度や含有率などを表示するといった事務的な対応も必要である。

以　上